

すばらしい土木技術をもういちど

第77回 EVENING THEATER

新春

東京の土木いまむかし

～新選定作品から～

東京スカイツリー ～634mへの挑戦～

技術を継ぐ～東京ゲートブリッジ橋梁上部築造工事記録～

「勝鬨橋」復刻版

「勝鬨橋」解説：元法政大学教授 山下清明氏（土木技術映像委員会顧問）

2014年1月22日（水）18:00 開場 18:30 開演 参加無料
土木学会 講堂（JR中央線・地下鉄丸の内線・南北線「四ツ谷」駅下車徒歩5分）

HPにて参加申込み受付

<http://committees.jsce.or.jp/avc/>

土木学会は建設系CPD協議会に加盟しています。イブニングシアターは、CPDプログラム(2単位)です。

会員証でCPDポイントの自動登録が可能ですのでご参加の際にご持参ください。

問合せ先：土木学会土木図書館 土木技術映像委員会担当

上映作品

東京スカイツリー ～634mへの挑戦～

企画 大林組 制作 NHKエンタープライズ 2012年 16分

東京スカイツリーの建設の様子や施工技術を一般向けに分かりやすく紹介している作品です。スカイツリーを支える杭の特徴、鉄骨の組上げ方、地上600mでの作業を可能にした新技術など、タワーの構造と建設方法の概要を知ることができます。日々変化する外観の空撮映像や、その内部で行われる巨大な心柱の建設、地上から工事を眺める人々など、多角的なアングルから工事の様子が撮影され、興味深い作品に仕上がっています。東日本大震災当時の現場の様子を捉えた緊迫感溢れる映像も収録されています。

技術を継ぐ ～東京ゲートブリッジ橋梁上部築造工事記録～

企画・製作 川田工業、宮地エンジニアリング、日立造船 2011年 25分

東京ゲートブリッジの上部築造は厳しい空路制限と航路制限を受けて進められました。工場において側径間下部トラス桁の地組立てを行い、総重量7400トンの世界最大級のフローティングクレーン3機によって、合い吊り一括架設をする場面が展開します。続いて、世界でも例の無い2900トンの中央径間下部トラス桁の張り出し架設では、中弦材、上弦材、斜材を、ボルト数12000本、精度2.5mm以内で約1日半で接合していきます。最後に紹介される中央箱桁架設では、東京港東航路を13.5時間完全閉鎖して、フローティングクレーンで落とし込み架設が行われます。温度上昇による部材の膨張を抑えるため、早朝から行われる工事の場面には緊張感が漂います。厳しい精度要件、施工条件、時間との戦いを克服して、これから先どんな苦難の多い橋梁架設にたずさわっても「架からない橋は無い」と思えるようになったという現場技術者の言葉が心に残る作品です。

「勝鬨橋」復刻版

企画・製作 土木学会文化映画委員会
復刻製作 土木学会土木技術映像委員会
2013年（元映像は1940年） 8分

2012年に土木技術映像委員会の調査により「勝鬨橋」を含む3本のフィルムが発見されました。当該映像は文献記録等から、昭和14年から15年にかけて土木学会文化映画委員会が製作したと推定されます。5分36秒のモノクロ無声映画で、タイトルなどが入っていないことから、完成版の手前の編集用の撮影映像と思われませんが、「勝鬨変電所」の看板の映像からスタートして機械室の中で操作盤に向かい実際に操作する職員の様子や、勝鬨橋が徐々に開いていき、大型船舶が通航するシーンなどが克明に映し出されています。今回は2013年に復刻・製作した「復刻版・オリジナル」、「復刻版・テロップ付」、「解説版（復刻版含む）」の中から、テロップを加えた映像をご覧ください。